

## 次世代を創る人材育成プログラム ThinkQuest (シンククエスト) の活動

### 次のステージへ動き出した ThinkQuest

ThinkQuestは、2～3人の中高生と、1～3人のコーチが1つのチームを組み、半年から1年をかけて、1つの題材についてウェブ教材を制作し、そのでき映えを競うコンテストである。応募部門は「科学・数学」「芸術・文学」「社会科学」「スポーツ・保健」「学際（複数の学問分野にまたがるもの）」の5つがあり、選ぶテーマは自由であるが、世界中の生徒に役に立つ内容であることが条件となる。これまでに世界約100か国から、3万人以上の中高生が参加し、5000以上の作品が教材ライブラリーに登録されてきた。

1996年に米国でスタートしたThinkQuest Internet Challenge（国際大会）は、2001年度コンテストをもって閉幕し、次のステージへと動き出した。新たなプログラムの幕開けとして、7月には国際フォーラムTQ-LIVEが米国シアトルで開催され、過去6回のファイナリストを中心に、世界各国の中高生たちが一堂に会する。また日本を含む世界11か国で、ThinkQuestのローカルコンテストが相次いで開催されており、各国での取り組み

はますます盛んとなっている。

日本で開催しているThinkQuest@JAPANは、5回目のコンテストを迎えようとしており、教育の情報化が進められる中、プログラムの充実とその成果にますます大きな期待が寄せられている。

### TQJ2001での新たな試みと成果

今年度開催されたThinkQuest@JAPAN2001には、中学生・高校生の部に1219人、大学生・社会人の部には222人、計1441人が応募し、昨年の2倍を記録した（資料3-1-28）。参加者は、2月中旬の作品提出を経て、3段階（第1次審査、第2次審査、最終審査）にわたる審査を受け、その結果、40人（15チーム）がファイナリストに決定し、プラチナ賞、金賞、銀賞、マルチイヤー優秀賞を受けるとともに、文部科学大臣奨励賞、総務大臣賞、経済産業大臣賞、特別賞の授与を受けた（図1）。

今回の審査では、ThinkQuestの教育的効果を高めるために、第2次審査通過チームに対して課題を与え、この成果を最終審査の項目に追加した。課題は次の3つ。第2次審査員の評価コメントを参考

に、作品を改良すること。マーケティング活動を行い、その報告を提出すること。ビデオテープによるプレゼンテーション資料を提出すること。この試みは、特に中学生・高校生の部において大きな成果をあげた。ぜひ受賞作品をご覧になっていただければと思う **Jump01**。

### 産業界と教育界の対話に向けて

2002年4月は学習指導要領が改訂され、「総合的な学習の時間」が設置されるなど、教育界において大きな変革のスタートとなった。この改訂の意図の1つには、10年後の世の中において求められる学力（能力）を育てることがあり、またこれは産業界が求める人材に相通ずるものと言える。またThinkQuestは、このような人材を育成する教育プログラムであると言っても過言ではないだろう。

ThinkQuestでは、ThinkQuestという教育プログラムを通じて、社会と教育とを結びつけようとする試み「ThinkQuestコンソーシアム」の創設に、新たに挑戦しようとしている。コンソーシアムでは、企業や自治体が会員となり、コンテストの開催、教材ライブラリーの整備、インターンシップなどの活動を行っていく **Jump02**。

これは教育界と産業界との間における対話への試みであり、また、共に協力して日本の未来を創っていくとするチャレンジであるとも言える。次世代を創る人材育成のプログラムとして、2002年、ThinkQuestはさらなる飛躍の年を迎えようとしている。

（望月なを子 シンククエスト事務局/グローバルコムズ株式会社）

資料3-1-28 ThinkQuest@JAPAN参加者の推移

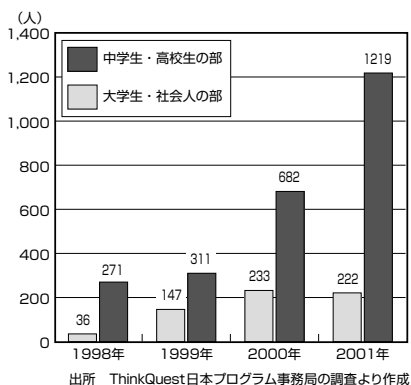


図1 ThinkQuest@JAPAN 2001 最優秀賞受賞作品「平和について考えよう！～ヒロシマ・ナガサキ原爆を通して～」

**Jump01** [thinkquest.jp/library/](http://thinkquest.jp/library/)

**Jump02** [thinkquest.jp/consol/](http://thinkquest.jp/consol/)



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)